

次世代自動車センター浜松 活動レポート Vol. 191

■ 2023 年度デジタルものづくり対応関連講座 サイバーセキュリティ対策基礎講座

近年のデジタル化の進展に伴って、コンピュータウイルス感染による工場の操業停止や個人情報流出など、サイバー攻撃の被害が急増しており、サイバーセキュリティ対策の強化が急務となっていますが、中小企業では様々な理由で対策・対応が遅れています。

次世代自動車センター浜松では、このたびヤマハ発動機株式会社様のご協力を得て、サイバーセキュリティに関する基礎知識の説明や、ヤマハ発動機株式会社様における取組みをご紹介いただき、当センターからは、中小企業がサイバーセキュリティ対策に取り組む際の考え方、具体的な取組手順の概要等をまとめ、サイバーセキュリティ対策が必要となる中小企業向けに基礎的な情報を提供する講座を開催しました。

■ 日 時 : 令和5年6月30日(金) 14時～16時10分

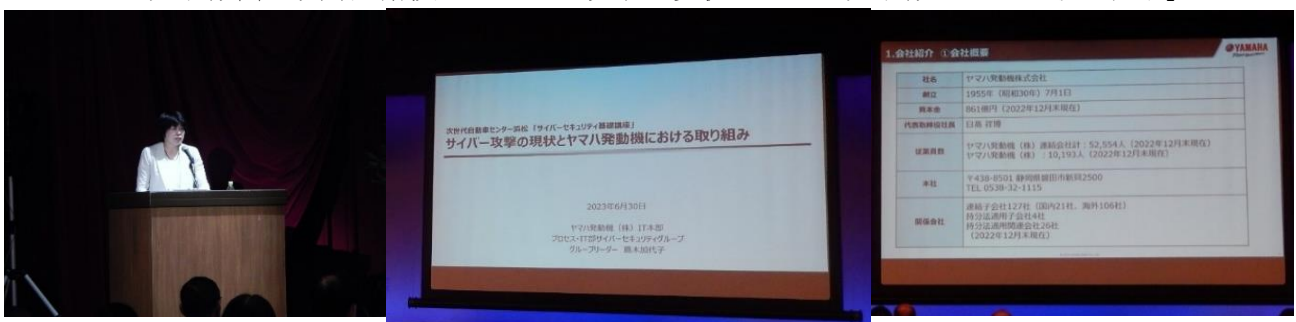
■ 場 所 : グランドホテル浜松

■ 参加者 : 76社/130名

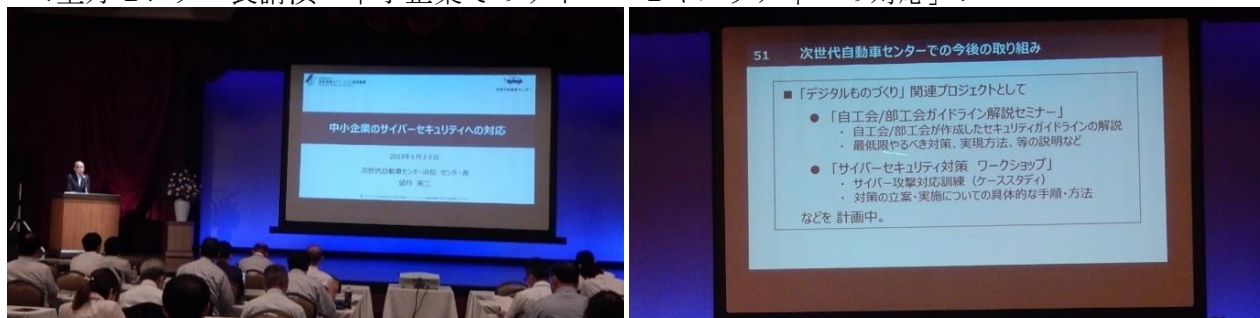
<開会>



<ヤマハ発動機(株) 蔦木様 講演「サイバー攻撃の現状とヤマハ発動機における取組み」>



<望月センター長講演「中小企業でのサイバーセキュリティへの対応」>



【参加者の声】

<講演①>

- ・サイバーBCP の考え方を知ることができた。
- ・サイバー攻撃の状況や被害状況が具体的に分かった。
- ・サイバー攻撃の脅威の実状とその影響の大きさを知ることができた。
- ・ウイルスの脅威とセキュリティの重要性が分かった。
- ・現状のリスクと今後も対策の必要があることを十分に理解できた。
- ・実際に発生した内容など、ためになる情報が多くあった。
- ・社内の取り組みのみならず、世間の傾向などを踏まえた説明で理解しやすかった。
- ・実際の事例や計画など時期とともに図示いただき、分かりやすかった。
- ・どのように対応していったか、どのように取り組んだのかスタートからの説明があり、対応方法の道筋が見えた。
- ・自社に置き換えて考えると、自社のネットワークのどこに危ういポイントがあり、そこをどう強化すべきなのか、見えてくるものがあった。
- ・社内、社外含めどのようにセキュリティ対策に取り組んでいけばよいのか分かった。
- ・対策の全体像(フレーム)の理解が深まった。自社経営へのアプローチのヒントがあった。
- ・バックアップを取っていても復旧できないことが多いと分かったのは勉強になった。
- ・常に新しい防御を知り、会社全体また取引先にも展開する。徹底することが大切であると分かった。
- ・サイバーセキュリティの情報収集を各 IT ベンダーから行っているが、本講座は最も共感でき、考えが整理できた。
- ・グローバル展開に向けた大規模な対応内容も一部あったが、過去事例も交え、他人事ではないという意識改善にもつながった。
- ・経営・リスク管理の観点で保守ではなく投資であること、サイバーBCP の備えについて考える機会となった。

<講演②>

- ・中小企業の課題、対策・取り組み方法が参考になった。
- ・中小企業にとって知りたい内容だった。
- ・現実的な考え方、対策が体系的に解説され、参考になった。
- ・まず何をしないといけないか、何が必要になるか理解できた。
- ・サイバーセキュリティ対策は、やりだしたら底の見えないものであるため、どの程度までやるべきか道を示してもらえた。
- ・大変分かり易く具体的な対応方法が見え、攻撃を受けた際のシミュレーションは行う必要があると感じた。
- ・防災の診断と減災のステップは試してみたい。
- ・自社での対応でも、対策が進まない要因が合致していることが分かった。
- ・セキュリティ対策の重要性、具体的な社内へのセキュリティ対策展開方法が分かった。
- ・サイバーセキュリティに対し、まだまだ甘く考えている人が、自分を含めて多いと感じた。
- ・中小企業の問題点がよく分かったので、自社の対応の参考になった。
- ・ヒト・モノ・カネ・情報の問題と最低限の対策の資料が分かりやすくまとまっていた。
- ・被害にあった時の減災という考えでの取り組みをあまりやっていなかったため、今後の方針に取り入れようと思った。
- ・サイバーBCP(手順)の具体的イメージをつかめた。